

整理番号	2024M-	167	補助事業者名	社会福祉法人丹徳会	事業項目名	福祉機器(機械)
------	--------	-----	--------	-----------	-------	----------

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2024	年	12	月	25	日	作成者	寺田行宏
-----	------	---	----	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
(2) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーアノ製 ・商品名: マリンコートリモ(特殊浴槽1台、フラット担架1台、電動コンパクトストレッチャー1台) 				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
実施計画・体制	特殊浴槽を導入し以前より使用している特殊浴槽と併せて2台体制の運用を行い、介護度の上昇に伴う特殊浴槽利用者の満足度の向上と入浴待ち時間の削減等効率的な利用ができる体制にする。				採点
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2024年10月18日	[達成状況] 100%	[具体的内容] 目標を2024年11月としていたが、予定より早く2024年10月17日に納品され10月18日に稼働テスト・取り扱い説明を行った。設置、稼働テストも問題もなかった。曜日ごとの入浴人数の調整を行い11月25日より運用を開始した。	採点
	事業の成果・波及	[達成値] 利用者数/日、稼働時間/日	[達成状況] 95%	[具体的内容] 11月25日以降の利用者数は26人、約650時間の稼働があった。利用者数は年度当初20人を想定していたが介護度の上昇による利用者数の増加もあり26人と増加した。また、介護職員が8月末で1人退職し入浴時の職員の負担が増加していた。導入後は週4日20人の利用者を5人の職員で対応していたが、週3日26人を4人の職員で入浴介助をすることができた。	採点
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] HPへの掲載、事例紹介分の作成	[達成状況] 50%	[具体的内容] 丹徳会HPでの掲載はバナーの貼り付けは業者に依頼、その他の実施報告は職員の作成になったが掲載ができた。併せて丹徳会会報への掲載を予定している。会報誌の掲載は9月を予定している。会報誌を利用し施設来訪者及び家族交流会出席者へ広く広報を行う予定。	採点
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 競輪、オートレースのイラストや補助事業による設置であることが掲載されていること	[達成状況] 100%	[具体的内容] HPへのバナー掲載、導入状況の掲載、施設玄関へのプレート設置を行った。	採点
(5) 自己評価の体制					採点

(b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	職員の入浴介助の負担軽減、利用者の満足度の向上、入浴待ち時間の減少について、職員のアンケート結果から十分達成ができた。今回浴室の改装を同時に行っていたため、特浴の導入時期を年度後半に予定していたが、1か月ほど早く導入できるようになったこともあり、利用者には計画より早く快適な入浴介助を提供できた。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	特殊浴槽を1台から2台体制に変更し、並列に設置したことにより、入浴利用者の見守りがしやすくなった。また、介助者の導線も最小限にすることができた。短縮できた時間を見守りや一人一人の入浴時間にあてることができ、安全性の確保や満足度をさらに上げることができた。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	当施設の入所者は年々介護度が上昇し重度の介助者数の比率が増加している。特殊浴槽の利用頻度は上昇の一途で下がることはない。介護職員の負担の軽減のため移乗、見守りに併せて機械化を行い、介護の質の向上につなげたい。

整理番号	2024M-	167	補助事業者名	社会福祉法人丹徳会	事業項目名	福祉機器(機械)
------	--------	-----	--------	-----------	-------	----------

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)~(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費	特浴機の導入に併せ浴室のリニューアル工事を行うことになりリニューアル工事終了後に特浴の据付を行うようになったため、導入時期を11月に設定することになった。	リニューアル工事に併せ既存設備の撤去費用を抑えるため施設敷地内に仮置きし、特浴搬入時まで保管することにした。また、リニューアル工事の工期が伸びないよう、工事内容を精査し工期延長につながる工事は最低限になるよう努めた。
			(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
		*	(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ	HPの作成経験・ノウハウを持った職員がいないため、HP作成業者にHP作成更新方法について相談した。バナー掲載は業者へ依頼。実績報告導入状況等の掲載は、既存のHP作成機能で費用・知識もなく作成できることで、業者の助言を得て作成することができた。	ITに強い介護職員の育成を行っていく。
		*	(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生(地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
		(15) その他			
		(16) 特になし			